

県連医療
安全委員会
主催

メディエーション研修会(8/5)に36名が参加!

県連医療安全委員会主催のメディエーション研修会が8/5(土)に開催され、各事業所から36名の職員が参加しました。研修会では、岡山医療生協専務で、医療メディエーターとしても活動している和田博友さんを講師に招き、約1時間の講義の後、2つのケースでのロールプレイを行いました。

参加者からは、「実際にロールプレイを行ったことで、ふだん体験できない患者側の思いなども少し理解でき、スタッフも患者もささいなことで行き違いがいつ起こってしまってもおかしくない実情も分かった気がする」「日頃会話の中で、その背景に何があるのだろうと思いつつ聞いていくことを心掛けていきたいと思っていたが、その根拠となる考

え方を学ぶことができたように思う」「医療紛争だけでなく、職場内や面談にも使える手法がいくつかあったので、活用していきたい」などの感想が出されました。(県連医療安全整備委員会)



リレー投稿

今年の憲法記念日の5月3日、安倍首相は、戦争の放棄を謳った憲法9条に自衛隊の存在を明記することなどを中心とした憲法改定を、2020年までに実現することを突然表明。早ければ来年1月に召集される通常国会で改憲発議を行うために、自民党内での議論が急ピッチで進められています。

さて、ここで問題です。

<問題> 「憲法9条に自衛隊の存在を書き加えることは、現に存在している自衛隊を書くだけなので、現状と変わらない」○か×か?

<答え>

○と回答した人→全日本民医連42期第3回評議員会方針案第2章、または、7/17付民医連新聞1面記事を読みましょう。

×と回答した人→知っている内容を周りに広げるなど、今すぐアクションを起こしましょう。

5月3日の安倍首相による改憲発言により、来年中にも改憲の発議と国民投票の実施が行われる可能性が高まっていることを受けて、今月開催される全日本民連第3回評議員会の方針案は、民医連運動の存在意義をかけて、憲法9条を守り抜く大運動に取り組むことを提起しています。また、評議員会方針案第2章では、「戦争はいのちをもっとも粗末にする行為であり、健康を破壊する最大の社会的決定要因です。医療や介護の担い手にとって平和を守ることは責務です」としています。

このことに関わって、8月9日の朝日新聞で、「国境なき医師団」の看護師として、これまで9か国の戦争・紛争地域で医療活動に関わり、現在もシリアで活動中の白川優子さん(43)が次のようにインタビューに答えていました。戦争

の現場を体験した医療者・日本人として、「私も少し前まで戦争はひとごととと思っていました。でも、長い間、平和だったシリアはあっという間に内戦になりました。戦争はある日、突然、始まってしまうものです。日本は戦争を放棄するだけじゃなく、絶対に加担してはいけない国。間接的でも加担する国になろうとすれば、私は堂々と反対の声をあげられる国民になりたい」「日本は「平和ほけ」と言われますが、それでいい。こんなに素晴らしいことはない」と。

最近、北朝鮮の問題などを取り上げて、「日本は防衛力やアメリカなどとの軍事協力を強化しなければいけない」と「軽々しく」発言する、自分自身は戦争の現場を体験したことのない政治家や一般市民がいますが、それに対して、戦争の現実を身を持って知っている白川さんの言葉は、リアリストの言葉として非常に「重たく」、また、同じ医療従事者として考えさせられる言葉だと感じました。

テレビなどでは、テロや北朝鮮の問題が「危機」として大きく取り上げられますが、本当の「危機」は別のところにあります。先の大戦で多大な犠牲を払って獲得した、世界にも誇れる、「本当に大切なもの」をあっという間に失ってしまわないように、後悔のない取り組みを進めていきましょう。

(香川民医連事務局 辻井正基)

安倍 改憲に

物申す



一言